



小型定置網漁業の着業による漁業経営の安定化

山口県柳井水産事務所 普及振興班 高田茂弘



山口県漁協室津支店の位置

1. はじめに

現在、全国の漁村地域では、漁業就業者の高齢化や担い手不足に加え、漁業コストの増大や魚価の低迷による収益性の低下に悩まされており、山口県でも多くの地域で同じような課題を抱えています。こうした中でも、若い漁業者らを中心に様々な取組みにチャレンジし、自らの所得の向上と地域の活性化に向けてがんばっている地域があります。

山口県の瀬戸内海側の東部に位置する山口県漁協室津支店は、正組合員が44人のやや小さな支店ですが、組合員は比較的若く、県下でも活気があることで知られています。主な漁業種類は、さし網、はえ縄、さより船びき網などで、マアジ、メバル、サヨリ、ふく類などが漁獲されています。しかし、水揚量は、平成17年の398トンから平成23年には280トンまで減少し、漁業経営も

苦しい状況となってきました。

このような状況を改善するため、同支店では青壮年部を中心とした漁業者グループ（Fresh室津）が地元量販店への直接販売に取り組み、収益性の向上に努めてきました。Fresh室津の取り組みは、平成24年度全国青年女性漁業者交流大会（流通・消費拡大部門）で農林水産大臣賞を受賞するなど大きな評価を得ました。



漁業者が量販店で直接販売をしているところ

2. 課題と対応

量販店への直接販売は、従来の市場出荷より高い収益性を確保できるなど、一定の成果を上げてきました。しかし、漁獲量の減少や悪天候により、供給が不安定で欠品や品目不足などを招き、量販店との信頼関係が十分に構築できず、せっかくの取り組みも成果が頭打ちになってきました。加えて、漁業者の取組意欲の低下も深刻になってきました。

これらの問題を解決するために、普及指導

員の発案により、自分が営む漁業に加えて、作業時間が短く、悪天候でも安定した水揚げが可能な小型定置網漁業に取り組み、漁獲物の安定供給を図ることとしました。

3. 活動経過

(1) 準備検討会の開催 (H25.12~)

小型定置網漁業の導入にあたって、まず支店役員と普及指導員で具体的な進め方を協議し、大まかな方向性を決めた上で参加メンバーを募ることとしました。平成26年2月に趣旨に賛同した13人で「室津支店定置部会」を結成し、スケジュール、作業体制、収益の分配、経営管理等、協議検討を重ねました。メンバーの営んでいる漁業種類が異なり、それぞれの考えも違って、協議はしばしば紛糾しましたが、紆余曲折を経て、ルール作りを進めました。



とある検討会でのひとコマ

(2) 敷設作業 (H26.11)

平成25年2月、県事業を活用して漁場調査を実施した上で、平成26年11月に優良と認められた2か所の漁場にグループ全員で小型定置網を設置しました。幸いにも国の「沿岸漁業リーダー・女性育成支援事業」を活用することができ、グループ員の初期投資を削減することができました。



小型定置網漁具を設置しているところ



実際の操業風景

4. 成果・活用

量販店への直接販売は、悪天候による集荷不足でたびたび中止となっていました。小型定置網設置後には集荷不足は解消され、販売もほぼ計画どおり行うことができるようになりました。小型定置網を導入する前の販売回数は、平均3.5回/月でしたが、設置後は平均5.5回/月となり、室津の魚目当ての客足も戻ってくるようになりました。量販店との信頼関係も回復し、漁業者自らの所得向上にもつながっています。

小型定置網の着業は、小さな漁村の小さな取り組みですが、自らが考え、現状を改善しようとする若い漁業者のために、我々水産業指導普及員はこれからもしっかりとサポートを続けていきたいと考えています。また、このような活動が県下各地に拡がり、漁業が再び元気になっていくことに期待しています。